

# 戦後70年の日本の平和、 歴史の記憶と和解

## —— 日米同盟の変容と東アジアの国際秩序

戦後70有余年、第二次世界大戦の反省に基づき日本は平和国家としてのアイデンティティを確立し、世界の尊敬を集める豊かな国へと変貌しました。本年創立70周年を迎え、PAX MUNDI PER LINGUAS（“言語を通して世界の平和を”）という高邁な理想を謳った校訓を持つ本学も、高等教育を通じて平和国家日本に貢献することのできる有為な人材を多数育成・輩出してきました。

昨今の東アジア地域の国際情勢に関して目を転じると、特にポスト冷戦期を迎えて日本を取り巻く安全保障環境が変化し、それと併行して戦後日本の安全保障の要である日米同盟の意義も変容して再定義されてきています。そのような状況下、「集団的自衛権」の行使の容認に見られるように、日本がこの地域の安全保障の確立において担うべき役割の変化がいよいよ現実のものとなってきました。他方、中国や韓国を含む近隣諸国との第二次世界大戦に関わる諸問題をめぐる「歴史の記憶」と「和解」に関しては、未解決の問題として、しばしば摩擦が起こっています。

今後、日本が平和国家として歩みつつも、自国のみならずアジア太平洋地域や世界の安全と平和にどのように貢献していくことが出来るのか。またその中で日米同盟は如何なる役割を果たすことが出来るのか。さらに中国や韓国を含む近隣諸国と今後どのような形で提携協力していくべきなのか。本シンポジウムでは、21世紀の日本の平和と安全の根幹に関わるこれらの重要な問題について、本学との協定校である米国フロリダ州立大学のThe Institute on World War II and the Human Experienceの二人の米国人研究者及び日本における日米関係史の第一人者である菅英輝教授（本学客員教授）をパネリストとして迎え、議論と展望を行います。

日時

2017年 7月19日(水)  
第3講時 (1:20 p.m.~2:50 p.m.)

場所

741教室

主催

京都外国語大学 国際部

共催

フロリダ州立大学 The Institute on World War II and the Human Experience  
京都外国語大学 国際言語平和研究所、国際教養学科、英米語学科

お問合せ

京都外国語大学・京都外国語短期大学 国際部  
TEL:075-322-6043



京都外国語大学  
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学  
Kyoto Junior College of Foreign Languages

### パネリスト



カート・ピーラー 博士 Dr. Kurt Piehler  
The Institute on World War II and the Human Experience, Director, Associate Professor of History

- ▶ Ph.D. Rutgers University, 1991
- ▶ 主要著作 *Remembering War the American Way* (Smithsonian Institution Press, 1995, reprint ed., 2004) [(邦訳:「アメリカは戦争をこう記憶する」(松籟社、2013年)]



アニカ・カルヴァー 博士 Dr. Annika Culver  
The Institute on World War II and the Human Experience, Faculty Fellow, Associate Professor of East Asian History

- ▶ Ph.D. University of Chicago, 2007
- ▶ 主要著作 *Glorify the Empire: Japanese Avant-Garde Propaganda in Manchukuo* (Vancouver: University of British Columbia Press, 2013; Seattle: University of Washington Press, 2014)



菅 英輝 博士  
京都外国語大学客員教授

- ▶ Ph.D. Hitotsubashi University, 1993
- ▶ 主要著作 「冷戦と「アメリカの世紀」」(岩波書店、2016年)

### ファシリテーター

佐々木 豊 博士 京都外国語大学英米語学科教授